

平成28年度 病虫害防除技術情報 第2号

平成28年6月30日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

梅雨期における農作物の各種病害対策について

本年度は、6月4日の梅雨入り以降、平年に比べ降水量が多く、日照時間は少なくなっています。そのため、水稻、果樹、露地野菜、施設野菜では各種の病害について平年より早く発生が認められています。6月23日福岡管区気象台発表の1か月予報では、向こう1か月の天候は平年に比べ、気温が高く降水量が多いと予想されており、今後の気象条件によっては被害の拡大が心配されます。排水対策を含め、各種病害の発生に注意し、速やかな防除に努めましょう。

1 被害が予想される主な作物

- 1) 普通作 水 稲 「白葉枯病」
- 2) 果 樹 カンキツ 「そうか病」 「黒点病」
カボス 「かいよう病」
ブドウ 「べと病」
- 3) 露地野菜 白ネギ(中山間地) 「さび病」 「黒斑病」 「べと病」
- 4) 施設野菜 トマト 「すすかび病」
ピーマン 「斑点病」

2 防除の考え方

- 1) 水稻の白葉枯病は、感染してからの防除では遅いので、大雨で冠水することが予想される場合は予防を行いましょ。
- 2) 果樹においては、降雨による慣行防除の遅れが心配されるので気象情報を確認しながら早めの予防を心がけましょ。
- 3) 白ネギは薬剤が付着しにくいので、必ず展着剤を使用し、株元にも十分付着するように散布しましょ。
- 4) 施設栽培においては、発病葉は伝染源となるので、見つけ次第ハウス外に持ち出し、土中に深く埋める等の処分を行いましょ。

- 5) 果菜類では、適切な肥培管理で植物体が過繁茂にならないようにしましょう。また、適度な整枝や葉かきを行い、通気をよくするとともに殺菌剤がかかりやすくなるようにしましょう。
- 6) ベと病(ブドウ、白ねぎ)及びトマトすすかび病は、発生が見られない圃場も既に病原菌が感染している可能性が高いため、まずは治療効果の高い薬剤を散布した後、予防剤(保護殺菌剤)を中心とした、系統の異なる薬剤によるローテーション散布へと移行するのが効果的です。
- 7) 防除薬剤は、大分県農林水産研究指導センターホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」(<http://www.jppn.ne.jp/oita/>)を参照してください。なお、薬剤によっては、指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに従って使用してください。

3 防除上注意すべき事項

- 1) 農薬使用基準(使用時期、使用回数等)を遵守し使用してください。特に、混合剤の場合、異なる商品名で同一の薬剤成分が含まれる場合があるため、「成分総使用回数」を十分確認した上で使用してください。
- 2) 薬剤によっては、高温時に薬害を生じやすいものがあるため、散布時間や天候、使用する展着剤の種類等に十分注意した上で散布を行ってください。



病害虫対策チームホームページ